

日本精神保健社会学会

THE JAPAN ASSOCIATION OF
MENTAL HEALTH SOCIOLOGY

<日本学術会議協力学術研究団体 No.1001>

ニュースレター第 65 号

発行人:宗像恒次 編集人:山本美奈子

平成 30 年 12 月 15 日

事務局:栃木県宇都宮市豊郷台 1-1

帝京大学宇都宮キャンパス

滝澤武研究室内

TEL&FAX 028-627-7188

E-mail:info@jamhs.org

第 24 回 日本精神保健社会学会学術大会を終えて

実行委員長 山本美奈子 (山形大学)



11月23日、爽やかな秋晴れのなか筑波大学東京キャンパスにおいて第24回日本精神保健社会学会学術大会が開催されました。「脳の多様性を生かしたメンタルヘルス」～発達しょうがいとは治療の対象ではなく生き方である～との宗像学会長の呼びかけに大勢の方にご参加頂きました。第1部の一般演題では、口頭発表が7題、ポスター発表が5題で、大会

テーマに合致する発表も含まれ、大変興味深い内容でした。

調査に関する発表では、思春期前期の生徒を対象に楽観性が精神健康に及ぼす影響について分析した内容や大学生の SNS 利用と性格との関連を検討した内容が報告されました。教育的な観点からは、算数学習に苦手意識がある生徒に対して自己効力感理論に基づいた介入による効果の報告、予防的な観点からは心理系授業に自己カウンセリングシートを活用することによって心理効果が得られたという報告、ストレスを天気マークに表現する自己管理シート開発によってセルフケア行動につながるという事例が報告されました。

実践研究では、大学生の就職未内定者にイメージ法を活用した効果の検討、しょうがい学生のキャリア支援では、大学内での就労プログラム開発の試みによって、不安の軽減につながったという報告がされました。また、発達しょうがいをもつ、ひきこもり青年の居場所として NPO 法人による支援の事例や大学の看護学部で取り組んでいる地域カフェが高齢者の閉じこもりや孤立予防につながるという内容が報告されました。

文献研究では、自閉症スペクトラム症に対し、オキシトシンの効果やマッサージが症状の軽減につながるという報告、メンタルヘルスの当事者活動に関しては、有益性がある一方で組織的な課題があるということが報告されました。さらに研修の実践では、発達しょうがいアドバイザーの養成に参加した受講者の評価について、考察した内容が報告されました。

今年も幅広い研究・実践報告が多く、示唆に富む内容でした。また発表の時間を守って頂くことで、会場からの質問の時間を確保することができ、積極的な議論によって発表内容をより深く理解することにつながりました。

午後からは、明蓬館高等学校校長の日野公三先生から「思春期の発達しょうがい生徒の支援と伴走を通して見えてきたもの」と題して、ご講演を頂きました。



明蓬館高等学校は、構造改革特別区域の法律を活用した広域通信制高校としてスタートし、2007年に東田直樹さん（自閉症作家として世界的に著名）が入学したことがきっかけで、「スペシャルニーズ・エデュケーションセンター（略称SNEC）」を設立されました。設立後は、生徒が安心でき、集中でき、学ぶことができる学校づくりを目標に掲げ、職員、教員が議論に議論を尽くし、学校運営の基盤を築いてこられたとご紹介頂きました。

設立当初より「発達しょうがいの特性が原因で学校に馴染めない、不登校や引きこもり、医療機関で投薬を受けても心身の不調が改善されない」子どもたちを受入れ、教育と福祉の両面から対応できるように、生活支援員、心理相談員、教員が連携して、普通科高校教育と特別支援を同時並行した取組を行っているとうかがいました。心理面のケアが必要な生徒も多いため、心理検査を実施し客観的な指標を参考にしながら、学習の特性にあわせた個別教育支援計画を生徒と一緒に考え、目標を共有する取組みについてもご紹介頂きました。この試みはまだ始まったばかりとのことでしたが、生徒の安心を保証し「知りたい、学びたい、できるようになりたい」欲求を満たし、笑顔と自信を回復し、興味・関心、自己選択性を重視し、社会参加に繋げる教育実践について、日野先生のあつい思いとともにうかがうことができました。

シンポジウム「脳の多様性を生かしたメンタルヘルス」については、宗像学会長に代わって中嶋理事から、発達しょうがいの脳の多様性についてお話をうかがいました。

まず、複合気質の自閉スペクトラム気質と自閉スペクトラム症を区別すること、また複合気質としてのADH気質とADH症を区別する

ことが大切であることを伝えられました。そして、脳の特性として自閉スペクトラム症の脳は集中型モードをとり、同じ関心領域で深めやすい脳であることを特徴として述べられました。自閉スペクトラム気質を活かした事例として、ウインドウズを開発したビル・ゲイツを紹介し、狭い関心領域に集中し関心を深めやすいことが成功の鍵になったと伝えられました。

一方、ADH症の脳は、非集中型モードをとるので、ひらめきが生じやすい脳であることを特徴として述べられました。ADH気質を活かした事例として、トーマス・エジソンを紹介し、新奇なことに敏感で、独自の発想ですぐに行動に転じやすいことが、成功の鍵になったと伝えられました。これらの脳多様性と発現気質との関連を様々な知見を交え説明された後、脳の違いは病気ではなく、個性であり、脳多様性に基づいたあるがままの個性の育て方や関わり方が、個性を発揮した生き方を支援することにつながると述べられました。また、当事者の視点からは、脳の多様性を活かした独自の人生目標をもつことが個性を発揮する生き方につながるということをうかがうことができました。

お二人のご講演内容を踏まえ、会場からは率直な感想や質疑応答がなされました。特に「個性が発揮される関わりへと私達が変化することが必要なのではないか」との意見が参加者の皆様から提言されました。今回のご講演を通して、子供に対して親や教育者の関わりは、大多数の平均的なやり方を無理強いしてしまっているのではないかと、改めて考える機会になりました。

本学会におきましても、脳多様性を生かした社会づくりへと貢献できるように会員の皆様とともに努めていきたいと思ひます。



学術大会全体の進行は、新行内理事が担当しました。午後からは、特別講演やシンポジウムを目的に来られた方も多く、大盛況のなかで本大会を終えることができました。

ご参加頂きました皆様、ありがとうございました。



参加者の声

○ 小長井 麻由（静岡県立大学）

私は今回の学術大会に初めて参加したことで、大変貴重な知識や経験を得ることができました。

まず、私は大学生のメンタルヘルスに着目しましたが、就職活動中の生徒や低学年の生徒、そしてしょうがいを抱えている人たちなど、研究対象が多面的でありメンタルヘルスの様々な問題点とその研究内容を知ることができました。



私は精神健康状態を測る天気マークの選択と、ストレス源及びストレス反応との関係を明らかにし、天気マークの選択が大学生のメンタルヘルス支援の一助となるかを目的として研究を行いました。そこで、私は今回の発表を通じて準備という作業が最も大切であると思いました。8月の介入期間の記録から抄録原稿、発表スライドの作成、そして発表練習まで欠くことなく行うことで初めて公の場で発表することができるのだと実感しました。準備をきちんと行い物事に取り組むことは社会に出て求められる技能だと考えます。今回の経験を大学生活に活かし、この技能をさらに伸ばしていきたいです。

○安西江里子（鳴門教育大学大学院）

今回、初めて日本精神保健社会学会にて発表をさせていただきました。事務の方が優しく、発表しやすい学会であるという感想を抱きました。

事前に郵送されていた学会資料の中に何時までに発表準備（パワーポイントをパソコンの中に入れる）をすれば良いのか明記されていて有りがたく、それに合わせて会場に到着するよう計画が立てやすかったです。また、パソコンの中に入れたパワーポイントは発表者の順に並べ替えをしてくださり、発表がしやすかったです。また持参した配布資料をどのタイミングで配っていいかわからず、事務の方に尋ねると親切に対応してくださり、その配布資料を会場内にいる人に配ってくださり、とても有りがたかったです。

ほぼ時間通りの進行がされていて、司会の方をはじめ事務の方々がタイムキープをしっかりしてくださる印象を持ちました。

今回発表する上で大変お世話になりました。ありがとうございました。

認定発達しょうがいアドバイザー研修報告

滝澤 武（帝京大学）

2018年9月1日帝京大学宇都宮キャンパスにおいて「認定発達しょうがいアドバイザー」研修会が開催されました。これは日本精神保健社会学会・NPO 法人生涯発達研究所・NPO 法人ヘルスカウンセリング学会・筑波大学ベンチャーSDS SAT 情動認知行動療法研究所の4団体連合による認定資格です。研修時間は13時から17時で、研修参加者は24名でした。講師は本学会長の宗像恒次先生で、研修会の内容は行動遺伝学、脳科学を基礎とするSAT療法（宗像恒次）にもとづく、①脳多様性からみた発達しょうがい②発達しょうがいの症状アセスメント③自閉スペクトラムの集中型モードの脳を生かす④ADHの非集中型モードの脳を生かす⑤脳多様性に基いたあるがままの個性の育て方⑥脳多様性に対する家族の負担感を軽減・消去するSAT法でした。

終了後のアンケートから参加者の感想をみると、

・自分を見つめなおすきっかけになりました。

- ・参加してよかったです。しょうがいではなく個性としてよい面を伸ばす、見つめることの大切さを知りました。
- ・非常に勉強になりました。自分のため、学生のために取り組んでいきたいと思います
- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。先生の講義を聞いて自分が本日学んだことを生かしていきたいです。
- ・考え、気づくためのきっかけになりました。
- ・子供に接する表情や言動に気をつけたいと思いました。
- ・発達しょうがい者にどのように接していくべきかという部分をもう少し学びたかった。
- ・もう少し、もっと勉強したいと感じました。

参加者の感想では、しょうがいを個性として伸ばし見つめることの大切さ、支援者である参加者自身が情緒を安定させ、子供に接するときの表情や言動の大切をあげており、研修の内容に肯定的な感想が多かったものの、もっと勉強したいと今後の学習を希望する記述がみられました。

今後は、栃木県以外で開催を企画し全国的に展開していくことが期待されています。広報活動が課題ですが、今回の参加者の研修を知った経過をみると、約6割の参加者が新聞（下野新聞社）の記事をみて研修を知ったと回答をしており、学会のホームページに加えて、地元新聞社の協力を仰ぐことが大切であることがわかりました。

地域全体で発達しょうがいのある子どもたちを支える社会の形成に、本研修会がたいへん有効です。是非、会員のみなさんの地域でも研修会を開催してみませんか。



会費納入のお願い

本学会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられております。平成 30 年度の年会費は、平成 30 年 10 月 1 日から平成 31 年 9 月 30 日の期間です。今年度の年会費納入をお願いいたします。なお平成 29 年度の会費納入がまだ済まれていない方は、速やかにご納入くださいますようお願い申し上げます。会費、振込み先は以下の通りです。

会費 通常会員 5,000 円 学生会員 3,000 円

振込み先 ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

なお、前年度の未納分を併せてお振り込み頂く場合、今年度会費に未納会費を加えた金額を記入の上、通信欄に「〇〇年度分と 2 年分」とご記入下さい。

退会をご希望の方は未納分の年会費をご清算の上、退会届（書式自由）を学会事務局にご提出ください。その他ご不明な点がございましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい。

機関誌「メンタルヘルスの社会学 Vol.25」の原稿募集

年報編集委員会では、会員の皆様からの原著論文を募集しております。また、総説、研究報告、実践報告、短報、研究ノート、資料等もお待ちしております。論文の書式は年報の執筆要項をご覧ください。なお、タイトル、抄録の英文についてはネイティブチェック（専門校閲）を必ず受けるようにしてください。

●原稿締切：平成 31 年 7 月 6 日（金）厳守

●送付方法および送付先

* 郵送のみの受付となります。 詳細は、投稿規定をご確認ください。

〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台 1-1 帝京大学宇都宮キャンパス

滝澤武研究室内 日本精神保健社会学会事務局

日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきました。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見だし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。

様々な分野の方々が、ご入会くださるよう期待しています。

2. 指針

- ①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。
- ②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。
- ③国際的にも仲間づくりをすすめていく。
- ④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。
- ⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。
- ⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先: 〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台1-1 帝京大学宇都宮キャンパス 滝澤武研究室内

日本精神保健社会学会事務局 TEL & FAX: 028-627-7188、E-mail: info@jamhs.org

入会金: 5,000 円

年会費: 通常会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員 一口 10,000 円（一口以上）、機関会員 20,000 円

送金先: 郵便振替 00170-6-613036 加入者名 日本精神保健社会学会

※ E-mail、FAX、郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏 名		生年月日	西暦 年 月 日 歳 (男・女)
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員 を希望する	連絡先	所属・自宅 を希望する
所属名 及び住所	〒 TEL: FAX: E-mail:		
自宅住所	〒 TEL: FAX: E-mail:		
所 属 系 (○印)	社会学・文化人類学・経済学・哲学・心理学・社会福祉学・教育学・看護学・医学・保健学・栄養学・体育学・地理学 行政学・政治学・その他()		
関心領域			

